

## 土壤医試験2級合格体験記

佐藤 春\*

### はじめに

私は3年ほど前から、肥料の製造販売会社に勤務しています。担当は土壤の化学分析で、営業員が顧客の農地から持ち帰った土壤について分析を行っています。ただ、大学で化学を専攻して卒業後、縁あってこの会社に転職するまでは、肥料・農薬等を含む農業に関連する仕事に就いたこともなければ、家庭菜園の経験もありませんでした（今も似たようなものですが）。転職の面接の際に「勤務地の北海道では、秋の収穫後から春の播種前の期間に土壤の化学分析が集中する」と聞いて「夏の生育期間中に分析し、冬は暇なのかと思っていた」と答えたほど、無知な状態での転職でした。

土壤医試験2級は、会社からの指示で受験しました。施肥設計のための土壤化学分析は、世間一般の化学的分析とはかなり違う点も多く、戸惑いながらも多量の土壤サンプルの分析に追われていた、入社後1年半ほど経った秋のことです。内心では「分析の繁忙期に入って仕事に追われているのに、しかもこれから更に忙しくなることが明らかなのに、繁忙期最終盤の体力気力が一番低下している時期の2月に受験なんて無理」と思って

いました。しかし、自分が色々と無知であり、勉強が必要であることも十分に分かっていましたので、合格不合格は二の次と考え、テキストと問題集を購入して受験勉強を始めました。

### 試験対策

結果から言うと、私が合格するには2度の受験が必要でした。1度目の受験では、時間がなかったこともあり、これまでに受けた他の資格試験と同様にテキストを読み込んで自分にとって不足している情報をテキストに書き込んだり、問題集で解けなかったものについてテキストを読んだり追記したり、という方法で、不足している知識を補うつもりでした。しかし、多少なりとも知識のある人ならば理解できるような文章であっても、農学部を出たわけでもない、農作業に携わったこともない、従って予備知識が全くない私にとっては、テキストを読んでも理解できないものが殆どで、「テキストが何を言いたいのか全然わからない」状態のまま試験を受けることになってしまいました。結果は当然ながら不合格でした。

そこで、分析業務の繁忙期が終わって一息ついた頃から、2度目の受験に向けて自分なりの試験対策ノートを作成することにしました。基本的には、試験に向けてのノート作り

\*住商アグリビジネス株式会社

は非効率で時間の無駄、とと思っている私ですが、購入したテキストを読んで理解できない以上、腹をくくって取り組みました。休日に、テキストを読みながら一文ずつ、段落ごとに、自分の言葉でまとめ直しノートに書き込む地道な作業は、途中で何度も、無駄な作業をしているような徒労感に襲われながら、4か月くらいかけて行いました。

ノートが出来上がってすぐに業務が繁忙期に入り、ノートを読み返したり問題集を解いたりする時間はそれほど多く取れませんでした。それでも、自分が理解できる文章でまとめたノートは、購入したテキストをそのまま読むよりも解りやすく、また、追記することも考えスペースを多めに取って作成していたため、インターネット等で調べたことを書き込んだりし、浅いながらも理解を深めることもできました。生育障害や作物の品質低下に、土壌養分の過不足や病害虫、土壌物理性が関わっていることはぼんやりと認識していましたが、具体的なデータや症例に触れたことがないため、なかなか知識として身につかずに苦労しました。



## おわりに

現在の仕事に就いて4年目に入りましたが、恥ずかしながらこれまで一度も圃場へ入ったことがありません。分析室に引きこもったままです。当然ながら作物の状態等を間近に見ることもないため、「これでいいのだろうか」と思いながら土壌の化学分析を行ってきました。そんな中で合格した土壌医試験2級は、少しだけ仕事に対して肯定感を持つことが出来たような気がします。今後も少しずつ勉強を重ね、生育現場を知らないなりに土壌や作物に対する知識を深めていきたいと思っています。